

機嫌のいい時に父が歌う。覚えてしまう。

綴ってみると、それは

Goodbye Im on my way, to dear old bubbling days…

と聞こえる。そこまで。

その後は知らないという。

ああ、今日も聞こえる。気分良さそうに。

でも、やはりそこまででぷつんと終る。

その先が聞きたい。

「覚えていないの？ どうして？」 「どこで教わったの？」

そう繰り返すが、父はわからない、という。



学生の頃か、海軍にいた頃か？あるいはその後？

人は、何気なく発することば遣いや、

ふと出る鼻歌になにか思い出を隠しているかもしれない…。

でも家庭の中での父しか知らない私は、

父の何を想像したらいいのか。

「さようなら、古き良き時代よ。私は今、また生きて行く」

とこの歌詞を私流に解釈してみる。

それから私は、その続きをつくってみる。

Hello the new day that I sincerely enjoy!と。

もうすでに覚えてしまったこの歌、

これからは私のことばで歌おうと考えている。